演題番号３

障害者の就労支援者には、働くことを希望する障害者が誇りを持って自立した生活を送れるよう、障害者の雇用を実現し就労継続を支えていくことが求められる。障害者の就労を支える人材の育成・確保は重要な課題である。しかし、就労支援の現場には依然として、障害理解・対処・職業準備性、就職活動の実施、職場定着・就業継続、就職後の体調管理とストレス対処、採用決定など解決が必要な複数の職業的課題が残されており（春名，2017）、困難性の高い支援場面に遭遇し苦慮する支援者は多いものと推察される。こうした状況の改善をめざすべく、本発表では熟達した障害者の就労支援者が有する知識やスキルなどに着目する。看護分野やソーシャルワーク分野などにおいて、熟達者を対象とした先行研究が複数認められるものの、我が国の障害者の就労支援分野における熟達者研究は未だ行われていない。そのため、アセスメント場面などで熟達者個人に内在化しやすい知識やスキルなどの形式知化を行う研究や、海外では実践及び研究活動が盛んな様々なICTを利用したテレ・リハビリテーション（八重田，2021）を通院が難しい患者にとっての選択肢とするための知見や実践の不足を補う研究(小河ら，2022)などを実施し、就労支援現場に還元できれば、障害者の就労支援分野の人材育成に大きく寄与できるものと考えられる。

交流シンポジウム当日は、熟達者を対象とした研究を遂行する上での課題や方法、障害者の就労支援者の育成に真に寄与する研究テーマとは何かなどについて自由闊達な雰囲気の下で意見交換を行い、障害者の就労支援分野の実践者及び研究者のネットワーク作りを行えればと考えています。